

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第259号 (2026.2.1-2026.2.8)

参加者 クイスケ、しまねこくん、真白ましろといいます。、大山晶子、霧雨
魔理沙、なざわこ、鍛冶師、蔭一郎、つきのさかな、水の眠り、月
階柚、水彩、西脇祥貴、藤岡あや、田中美蟲角、桑原雑、
Nichttrachchen、a 個、佐井杜有、台風のめ、汐田大輝、笛地静恵、
織部ゆい、白水ま衣、岡村知昭、松本清展、宮坂愛智、しろとも、あ
づみのマルコ、もりや、カオルル、鈴木正巳、ゆうたま、kaze、るう
にい、真説の創作、石原とつき、白井沙漠、雨声、空野つみき、山羊
の頭、雷(らい)、TET、ぼこう、片羽雲雀、非常口ドット、石川聡、
薄明かり、三明十種、不思議な話のアイン、江口ちかる、まどけい、
貉川碧風、水井良柚(りようゆう)、小林太氣圈、ふくろうたかこ、枯
れ芒、安藤蜜豆、山田真佐明、よもやまさか、久々原仁介、月波与
生(ふたご)

◆川柳・俳句

イマジナリーサロメと歩く雪の夜 クイスケ
夜に見る微笑みの国の自殺率 クイスケ
たおやかな生成りのくしやみ クイスケ
出窓に浮かぶ冬のさそり座 小林太氣圈
あのひとのような涙を流せたら 安藤蜜豆
どれだけの星が見えればシリカゲル 汐田大輝
右折したところで紅い桃を生む 汐田大輝
欲しいのは天国またはスキムミルク 汐田大輝
変顔になるまで少し時差がある 汐田大輝
睫毛しか青信号に気づかない 蔭一郎
どの部屋に行っても座禅してる僧 蔭一郎

蟹のエレベーターに流れない月 蔭一郎
田錐が上手に描けて春が来る 蔭一郎
静寂のなかで凍ってゆくバター 空野つみき
捕まえた凍夜を放す森がない 白水ま衣
手袋は手よりさびしい 白水ま衣
春近し長き手足の小栗旬 カオルル
後毛の少女水菜の水に棲む カオルル
検索しても出てこない文豪になりたかった もりや
「さみしい」はインディゴな嘘 Nichttrauerchen
ゆるい句をゆるいまんまに出す余寒 しまねこくん
冴返るラヂオ体操ラヂオ無し しまねこくん

*

通せんぼ意地悪をする春隣 真白
白鳥やどこも戦のくにばかり 大山 晶子
双葉みて 心和んだ 幼き日 霧雨魔理沙
凍夜に独り我は美しい 水彩
はけた子に渡される中島みゆき 西脇祥貴
夢ひとつ叶えられそな凍夜かな 田中美蟲角
冬枯れの公園の樹々春に飢え 桑原雑
凍夜には竹の樹液と取り換える 佐井杜有
勇ましくネズミに食べられるマウス 岡村知昭
節分や永谷園のちらし寿司 松本清展
さみしくて凍夜にそっと添い寝する しろとも
連れ立ちて白線流す雪解川 鈴木正巳
コンビニのおにぎり凍ててデトロイト ゆうたま
とりかぶといまさらささやきぐるみ化 石原とつき
薬屋で凍った中華そばを買う 雷
凍える夜世界で感じる私独り Tshi
目に涙鼻水垂らし春來たる 宮坂変哲
凍夜ごと涙で拐い明けて春 片羽雲雀
洞爺湖の凍夜の月は 石川聡

寒晴や凝りちぢまりし人の肩 三明十種
土星つてフラフープするやつだっけ アイン
ぼろぼろの最後尾はこちらです 江口ちかる。
節分や豆をまかずにくだを巻く まどけい
凍夜とて 月を憂でれば 時忘る 貉川碧風
凍る月冷たき光に影も出られぬ 水井良柚
晩御飯はセンチメンタルハンバーグ 小林大気圏
民法の相続放棄雪つぶて 山田真佐明

*

あなたのように泣くあなたに似た人 月波与生

◆ 短歌

旧作の映画に君の香り立ち椿の落ちる道はまだらに 水の
眠り
究極の受け身で生きてる 君が僕を好きなら好きだし嫌い
なら嫌い つきの さかな
孤独こそ 歌の糧だと 詠むほどに 歌だけが増え 人は
去りゆく 鍛冶師

*

朝顔の自由研究する君の隣で虹を生み出す研究 月階柚
凝固した遠吠えのような君の目は暗がりにそっと寂しく光
る 藤岡あや

震えつつ潜(もぐり)潜(ひそ)んだ夜の裾めくる指先、爪が
白(しろ)ける 個

飛び去った白鳥だけが美しく眼窩に満ちる雪の呼び声 台
風のめ

ふたり手を繋ぎ眺めた星なのに涙カッンと零れ痛いよー
織部ゆい

帰り道、西陽を跨ぐ 街灯が川面に揺れる 僕の物語 月

階柚

封筒の糊だけ甘く舐め残し届かぬことを信じてだすよ あ
づみのマルコ

事を論ぜず雰囲気のみを頼りとし騙せるうちに逃げ切る狐
笛地静恵

冷えきった夜が朝へと変わる頃 君との恋が弾けて消え
た Kaze

凍てついた 身体と心 震わせる 君の温もり 求めてやまぬ
るうにい

アイスより冷たい冬のワンルーム 甘くはなくて澱むヘル
シー 真読の創作

神の教えと信じロリコン漫画布教し後の祭り ぼこう
殴られた心が出した高熱へ凍夜を削りなんとか眠る 非常

口ドット
占いで恋愛運を読み飛ばす君は脈なし恋はふりだし 薄

明かり
初めて〇〇してくれた人の法則すべてが夢ですべてがリア

ル 雨声
本当は刺々だらけの自分でも優しさを吐けるそれだけが救

い 枯れ芒

◆詩・短文

煌めく光芒が

揺れる象形文字を描く

プールの底で（桑原雅）

なんにも変わらない心で

ずいぶん遠くまで来てしまった（白井沙漠）

痛みはだいぶひいてきた
昼夜問わず訪れる睡魔
闘うことはやめよう
身体が欲しているのだから
この流れに任せよう
逆らって生きてきたのだから（山羊の頭）

嘆きでも悲しみでもなく
ただ知りたい
この病になったのは
なぜ私だったのか（ふくろうたかこ）

かばんに入る
手袋になる
朝めし喰らう
主人の影
蛍光灯がチラチラ
ご飯をかつ込む

朝の風は
雪をはらんで
主人におそいかかる
吹雪が舞い込んで
私の出番だ

私が小さいのは
私が役に立つからだ
障がい者が卑小なのは
みるあなたの
心が卑しいからだ

私は小さいが

温かい (山田真佐明)

◆作品評から

猫社員も退職希望してるのに クイスケ

『退職代行サービスを行う会社の社長が《弁護士法違反》の疑いで逮捕された事件は、警察に退職された企業からの圧力もあったのでないかと疑っている。猫社員もなかなか退職できないのだろう。(月波与生)』

鯨鯨のアリアに夜の忍びよる カオルル

『「鯨鯨のアリア」は面白いがルッキズムに抵触するかもしれない。先日川柳に「立ちんぼ」と書いたら「差別語ですの」と変更を求められた。結局ボツにしていたのだが難しいものである。(月波与生)』

今月は声にできない外来語 汐田大輝

『「声にできない外来語」というのもいいが、唐突に「今月は」で始まるのも面白い。(月波与生)』

緋色っていうんだね橋で泣く少年合唱団 牛田悠貴

『色から始まりよくぞ少年合唱団まで繋げた。ただ長い。ここまで長いなら少年少女合唱団でもよいよ。(月波与生)』

凝固した遠吠えのような君の目は暗がりになつと寂しく光る 藤岡あや

『叫びたいのに声にならず凍りついてしまったような、あるいはもうとつくに叫び終わってしまったって残響だけが固まってしまったような、イメージを感じました。(月波与生)』

与生

震えつつ潜(もぐり)潜(ひそ)んだ夜の裾めくる指先、爪が
白(しろ)ける。♫個

く震えながら夜の底に潜り込んで、でも指先だけが夜の
裾をめくろうとする……その爪の白け方が、凍夜の寒さを
まっすぐに刺してきます。(月波与生)

冴返るラヂオ体操ラヂオ無し しまねこくん

くラヂオがなければテレビを見たらいいのですわ。おほ
ほほほ。(よもやまさか)

ふたり手を繋ぎ眺めた星なのに涙カツンと零れ痛いよー
織部ゆい

くふたりで眺めた星が、今は涙をカツンと落とす音に変
わる……その『痛いよ』が切ないね。(月波与生)

円錐が上手に描けて春が来る 蔭一郎

く「円錐が上手に描けて春が来る」。新米の数学教師を
イメージしました。なにかと不器用なところがあり、それ
でもたくさん練習してようやくうまく書けた。きつと良い
先生になるのでしょう。(季川詩音)

朝顔の自由研究する君の隣で虹を生み出す研究 月階柚

く虹を生み出す研究いいなあ今年の夏は自由研究して
みようか(久々原仁介)